

医療通訳共通基準（素案）

医療通訳の基準を検討する協議会

医療通訳共通基準（素案）

1 基準策定の目的

医療通訳に関わる個人及び医療通訳派遣システムを運用する団体が1つの「目安」として共通して活用できる基準を設定するものである。

2 基準の視点

- ① 多文化社会の実現に貢献するものであること
- ② 患者に安心感を与え、信頼関係を築けるようなものであること
- ③ 医療通訳を専門職の1つとして認識するものであること
- ④ 専門職として養い、学ぶ必要のある事項を抽出し、体系化したものであること
- ⑤ 提示した事項は、医療通訳トレーニング等の過程で養い、身につけていくことができるもの
- ⑥ 共通基準は、他の基準を排除するものではなく、また地域の実情（地理、通訳人材、財源、文化など）に応じて修正可能なものであること

3 基準策定の手続き

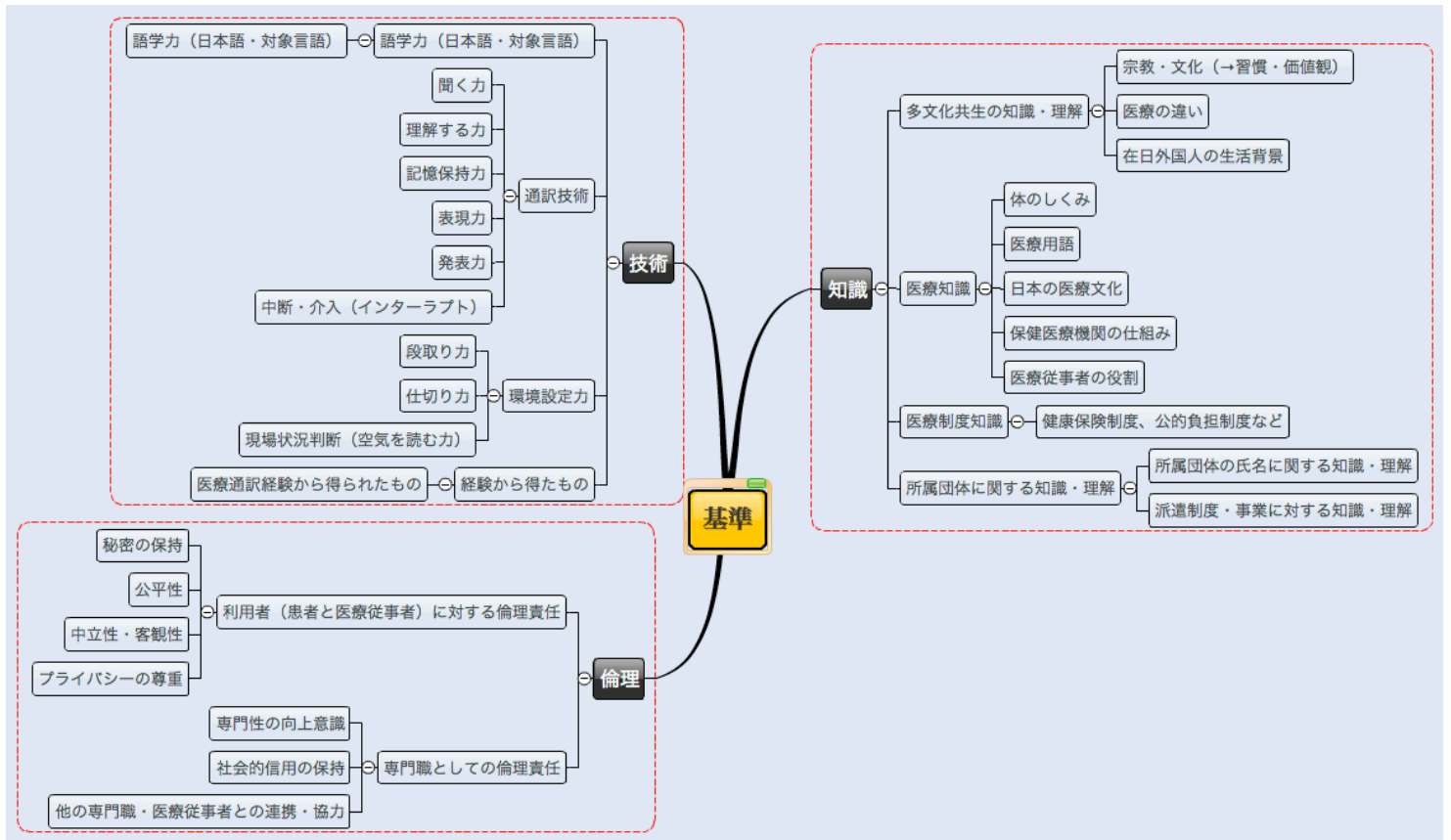
- ① 医療通訳の基準を検討する協議会
（構成員：MICかながわ、多文化共生センターきょうと）における検討
- ② 第3回医療通訳を考える全国会議における派遣団体実践者等との議論
- ③ 医療系学会や通訳系学会等における議論

4 共通基準の項目と説明

大項目	中項目	小項目	説明	
知識	多文化共生の知識・理解	宗教・文化（→習慣、価値観）	患者や家族の出身国・地域の宗教、習慣、価値観の違いに関する知識・理解	
		医療の違い	患者や家族の出身国・地域の医療制度、医療文化に関する知識・理解	
		在日外国人の生活背景	在留資格制度や在日外国人等の生活状況、医療場面での困難な状況、医療通訳の現状、病気になったときの人間の心理（怒り、不安等）などに関する知識・理解	
	医療知識	体のしくみ	身体器官の仕組みに関する知識	
		医療用語	一般的な病気とその症状に関する用語の知識	
		日本の医療文化	医師と患者間の関係など日本の医療従事者の文化に関する知識	
		保健医療機関の仕組み	病院の種類と役割・機能（高度機能型、地域支援型、回復期療養型）、診療所の役割、各診療科の名称などに関する知識	
		医療従事者の役割	医師、看護師、医療ソーシャルワーカーなど医療従事者の種類と役割に関する知識	
	医療制度知識	健康保険制度、公費負担制度など	各種医療制度に関する知識	
	所属団体に関する知識・理解	所属団体の使命に関する知識・理解	所属団体の使命、組織構成、活動内容に関する知識	
		派遣制度・事業に対する知識・理解	医療通訳派遣の制度・事業の内容に関する知識	
	技術	語学力（日本語・対象言語）	語学力（日本語・対象言語）	患者として母語で受診する際の会話レベルと同等の語学力を通訳言語において持っていること
		通訳技術	聞く力	集中力・リスニング力
理解する力			利用者の会話の内容を的確に理解する力	
記憶保持力			メモとりのスキルや短期記憶を保持する力	
表現力			語彙力や構文力、文法力など	
発表力			発音や声の質、場面に応じた伝達力	
中断・介入（インターラプト）			わからない場合に通訳を中断して、わからないと言えること、再度会話内容の確認をできること、辞書を引けること	
環境設定力		段取り力・仕切り	利用者間の会話の交通整理ができること 適正な通訳の席・位置を確保できること	
		現場状況判断（空気を読む力）	通訳現場の状況を把握し、的確に理解する力	
経験から得たもの		医療通訳経験から得られたもの	不測の事態に冷静に対応するなど、現場から得られた言葉で表現できないノウハウ、暗黙知	

倫理	利用者（患者と医療従事者）に対する倫理責任	秘密の保持	患者情報等の守秘義務の徹底
		公平性	どのような利用者にも公平に対応すること
		中立・客観性	利用者の一方の見方になって、もう一方を責めないこと、通訳に自分の価値観や主観を混ぜないことなど
		プライバシーの尊重	患者にとって聞かれないことを聞かないこと、患者の意に反して患者のプライバシーに踏み込まないこと
	専門職としての倫理責任	専門性の向上意識	常にアンテナを張り、医療通訳者として必要な新しい制度の理解やより深い知識の習得に努める意欲をもつこと
		社会的信用の保持	専門職として社会的に信頼される言動に心がけること
		他の専門職・医療従事者との連携・協力	医療従事者や関係者との連携・協力関係を大切にすること、患者からの相談などを一人で抱え込まないこと

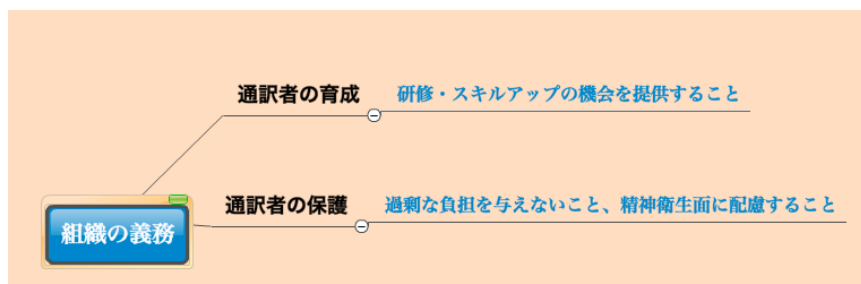
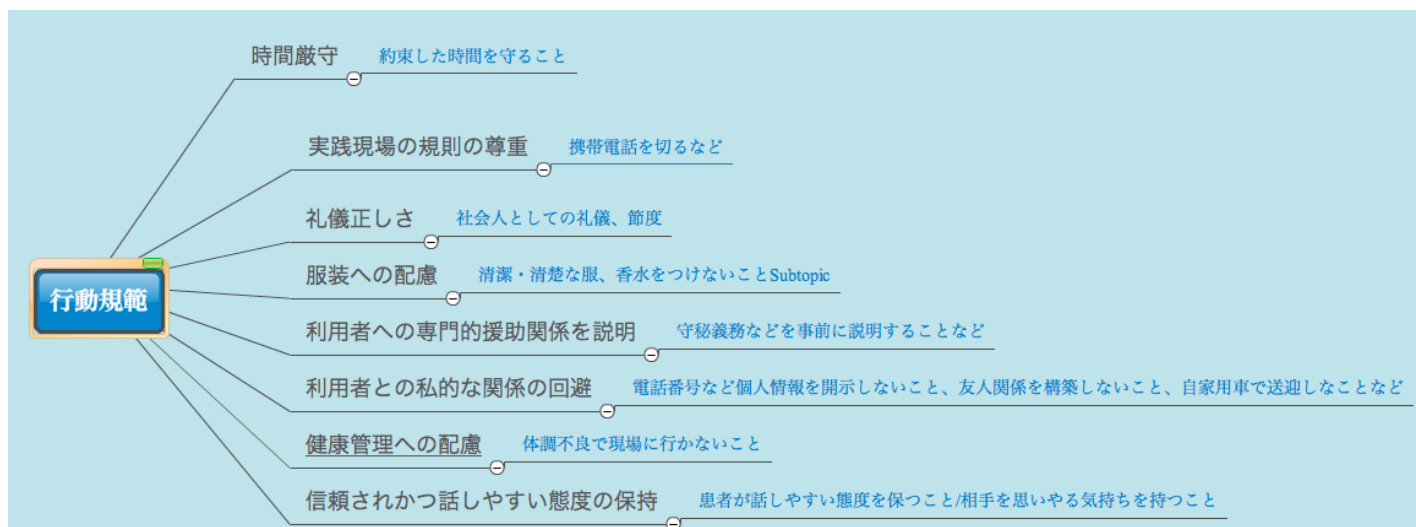
参考



5 参考事項

	項目	説明
行動規範	時間厳守	約束した時間を守ること
	実践現場の規則の尊重	携帯電話を切るなど
	礼儀正しさ	社会人としての礼儀、節度
	服装への配慮	清潔・清楚な服、香水をつけないこと
	利用者への専門的援助関係の説明	守秘義務などを事前に説明することなど
	利用者との私的な関係の回避	電話番号など個人情報を開示しないこと、友人関係を構築しないこと、自家用車で送迎しないことなど
	健康管理への配慮	体調不良で現場に行かないこと
	信頼されかつ話しやすい態度の保持	患者が話しやすい態度を保つこと 相手を思いやる気持ちを持つこと
組織の義務	通訳者の育成	研修・スキルアップの機会を提供すること
	通訳者の保護	過剰な負担を与えないこと、精神衛生面に配慮すること
	社会に対する責任	医療通訳に理解のある医療機関の拡大に努めるとともに、社会的認識を深める取組を行うこと

参考



6 共通基準検討メンバー (敬称略・五十音逆順)

- 森田 直美 NPO法人多言語社会リソースかながわ 英語医療通訳スタッフ
会議通訳者
- 三浦 遼 NPO法人多言語社会リソースかながわ総務部長兼英語医療通訳スタッフ
- 政宗 敦子 NPO法人多文化共生センターきょうと 医療通訳コーディネイター兼英語医療通訳者
- 前田 華奈 NPO法人多文化共生センターきょうと 医療通訳派遣事務局スタッフ兼翻訳事業担当
- 西村 明夫 NPO法人多言語社会リソースかながわ プログラム・アドバイザー
日本パブリックサービス通訳翻訳学会理事
- 鶴田 光子 NPO法人多言語社会リソースかながわ 理事長
聖テレジア病院福祉医療相談室スーパーバイザー (社会福祉士)
- 高嶋 愛里 NPO法人多文化共生センターきょうと 理事 医療通訳コーディネイター
看護師,保健師 びわ湖国際医療フォーラム世話人
- 重野 亜久里 NPO法人多文化共生センターきょうと 理事長 医療通訳派遣事業統括
びわ湖国際医療フォーラム世話人
- 佐藤ペティー NPO法人多言語社会リソースかながわ 中国語医療通訳スタッフ
- 岩本 弥生 NPO法人多言語社会リソースかながわ コーディネーター兼ポルトガル語医療通訳スタッフ